

資料紹介

「戦前の「教員辞令書・証書・叙勲証書」」

みなさん、あけましておめでとございます。

今回は新年にふさわしく、おめでたいお話しをしますね。

このたび、町史に戦前の貴重な資料が寄贈されました。

その資料とは、字嘉手苅出身である外間仁榮氏の教員辞令書十通、証書一通、叙勲証書一通です（昭和三年から十九年までのもの）。資料を提供していただき

たのは、仁榮氏の息子さんの惟正氏。

西原町はさきの沖繩戦においては激戦の地となり、多大な被害を被りました。

そのため、このような戦前の資料は数少ないといえます。

それでは、すこしばかり辞令書の内容をみてみましょう。

沖繩県中頭郡西原尋常高等小学校訓導

外間仁榮

沖繩県中頭郡西原村立西原實業補習學校助教諭二兼任又

教授期間中月手當金

五圓給與

昭和三年六月三十日

昭和十六年十二月一日

沖繩縣國民學校訓導外間仁榮
國民學校訓導主任
高等官七等ヲ以テ待遇ス

内閣總理大臣 東條英機

▷寄贈された辞令書（当時の内閣総理大臣「東條英機」の名が見える）

①の教諭として任命されたようです。その給与は月五円でした。

この辞令書以後、外間氏は第二豊見城尋常高等小学校訓導、豊見城村第二青年訓練所指導員、豊見城實業補習學校助教諭、西原尋常高等小学校訓導、中城尋常高等小学校訓導、國民學校訓導（高等官七等）、國民學校長（高等官六等）という履歴をたどります。

昭和十六年の國民學校時代の辞令書には、とこの内閣総理大臣、東條英機の名がみえます。また、昭和十五年に赤十字社社員の証書、昭和十九年には宮内大臣から叙勲証書をもらっています。

これらの証書には、美しい菊や桐の花のすかしが入っているものもありました。

このように、外間氏の辞令書からは、外間氏という人の歴史がうかがえると同

時に、その当時の教育や社会までみえてくるようです。町民のみなさんにとって、当時を知るよい資料だといえるのではないのでしょうか。

西原町史でも、「西原の教育」の編集に取りかかっている最中であり、このような資料はたいへん参考になるありがたいものです。今後とも、この資料をさらに活かせるように努力して参ります。

こんなおめでたいお話しが年中お伝えできるような今年も町史はがんばりますので、ご協力のほどよろしくお願ひします。

*注①

実業補習学校とは、職業に必要な知識技能を補習する学校で、この構想は日本資本主義の発展を背景に、一八九三（明治二十六年）年の「実業補習学校規程」に基づいて設置され、国より多額の補助金が支給された。入学資格は尋常小学校卒業以上だが、学齢を過ぎた者にも入学が認められた。修業年限はふつう二ヶ年で、小学校に付設し、多くは夜間の二時間内外の授業であったが、農閑期を利用する昼間の授業もあった（『沖繩大百科辞典』抜粋）。